

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 7年 3月 5日

公表: 令和 7年 3月 31日

事業所名 Rise

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	活動内容に応じて部屋を使い分けるようにして、どのような活動でも子どもたちが快適に過ごせるように努めている。	
	2 職員の配置数は適切である	4	1	活動内容を踏まえ、より安全性を高める必要があると感じる日には、普段より多くの職員に出勤していただく等の工夫をしている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1		入口に僅かながら段差がある。現在、バリアフリー化への配慮の必要性が高い児童の在籍が無く、今後、身体障害を抱える子等を受け入れる時は、きちんと対策を講じたいと考える。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	0	毎日清掃を実施し、清潔を保っている。快適な空間となるように古くなった備品を買い替える等、備品の整備も強化している。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0		定期的に業務改善に向けた職員会議を開催し、円滑に業務が進められる環境整備を行いたいと考える。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	毎年評価表を集計した後に職員で話し合う場を設けている。評価表の内容を踏まえて改善や変更ができる内容は迅速に着手している。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	毎年、実施できている。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1		年に数回程度の実施に留まっている。外部研修の機会をさらに増やすため、情報収集に力を入れていきたい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0	児童一人一人に担当職員を決め、児発管とともにニーズや課題の分析にあたるよう工夫している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0		
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	0		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	毎月の活動内容は、職員で会議を開き検討し、プログラムに対しても担当者を決めることで事前準備を丁寧且つ計画的に行えるよう工夫している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	どの子にも様々な経験を積んでいただきたいと考え、プログラムは日替わりで決定するようにしている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	0	子どもの特性や発達の段階に応じて、個別活動と集団活動のバランスを決定するようにし、支援計画にも記載をしている。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	毎日欠かさずに打ち合わせを実施している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	退勤前に終礼のような形で、当日の振り返りをする時間を確保している。その際の情報も記録に残している。	
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	2		日によって記録の内容が少なくなってしまう日がある。今後は記録を記入し、目を通す時間を明確に確保していく方針である。	

20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0		
----	---------------------------------------	---	---	--	--

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0		後進育成の観点から、可能な限り複数人で参加をさせていただき、会議の参加にふさわしい人材が増えていくことを目指す。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	1		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	2	医療的ケアが必要な子どもの在籍が無い。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	2	医療的ケアが必要な子どもの在籍が無い。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	2		毎年保育所等から移行していただいているにも関わらず、積極的に行えていないと感じる。情報共有のための本人情報シートを作成する等、工夫を取り入れていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	2		新年度や新学期等、必要に応じて実施しているが、まだまだ積極的に行えていないと感じる。情報共有のための本人情報シートを作成する等、工夫を取り入れていきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	3		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	連絡帳を採用し、文面で事業所内での様子を伝えることに加えて、送迎時に直接保護者の方へ伝えることを続けている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	3	事業所内で上手くいった関わり方等は適宜ご報告し、ご家庭に還元できるよう努めている。		
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	必要に応じて電話や面談の機会を設け、保護者の方の悩みに寄り添うように努めている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	保護者会の開催が安定して開催できるように体制を築くことができた。その際に保護者同士での情報交換の時間を設けるようにしている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	LINE配信・HPでの公開にて活動の様子や行事予定を発信している。	情報発信の頻度を高め、より多くの方に事業所のことを身近に感じていただけるようにしたい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0	肖像権に関する同意書を作成する等、適切な対応ができていると感じる。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5		夏祭り等の行事に地域の方をお招きできるように検討していきたい。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	2		策定はされているが周知が甘かった。まずは入職者への新人研修にて説明・周知する時間を取り入れる等の工夫をしていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	月に1回の避難訓練を実施している。内容も震災・火災・水害等多くの場面を想定している。	消防署の方等、専門性の高い方に助言を求めると、訓練の質の向上を図りたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	調理をする活動の前には、必ず使用する食材を保護者の方へ連絡している。	保護者の方からの情報に留まっている。医師の診断書を踏まえた対応ができるように保護者の方と共同して体制の見直しをしたい。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0		ヒヤリハット事例の共有が増えていくと、大きな事故を防ぐことに繋がるとも言えるため、今後も作成頻度を向上させていきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	虐待防止に向けた研修を年1回以上の頻度で実施している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	0	年に1回以上、身体拘束禁止等への研修を開催している。保護者の方へは、契約時に説明し、支援計画書にも記載を行っている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。